

第4章 5か年の計画

1. 地域における役割と方向性

当院は、一部事務組合（地方公共団体）である共立蒲原総合病院組合が運営している公立病院であり、地域住民の健康保持に必要な医療を提供する目的で設置されています。

このことから、地域の特性、答申及び住民アンケート結果を踏まえ、当院の地域における役割と方向性を以下のとおりとしました。

(1) ケアミックス病院

答申においては、療養病床への転床は、公立病院としての当院の存在意義として特に取り上げられています。また、第3章で述べたとおり、国は病院の機能分化を打ち出しています。

このことを受け当院は、平成22年10月に療養病棟を開設し、以降、一般病棟（急性期）と療養病棟（慢性期）の2種の病床を持つケアミックス病院としての環境を整えました。

ケアミックスの特徴は、急性期から慢性期の医療へ円滑に対応することが可能であることです。急性期病院の患者は、在院日数の規制やクリティカルパスで示された日数で退院を余儀なくされます。しかし、ケアミックス病院では、一般病棟で急性期を脱した患者が、スムーズに療養病棟へ移ることが可能です。

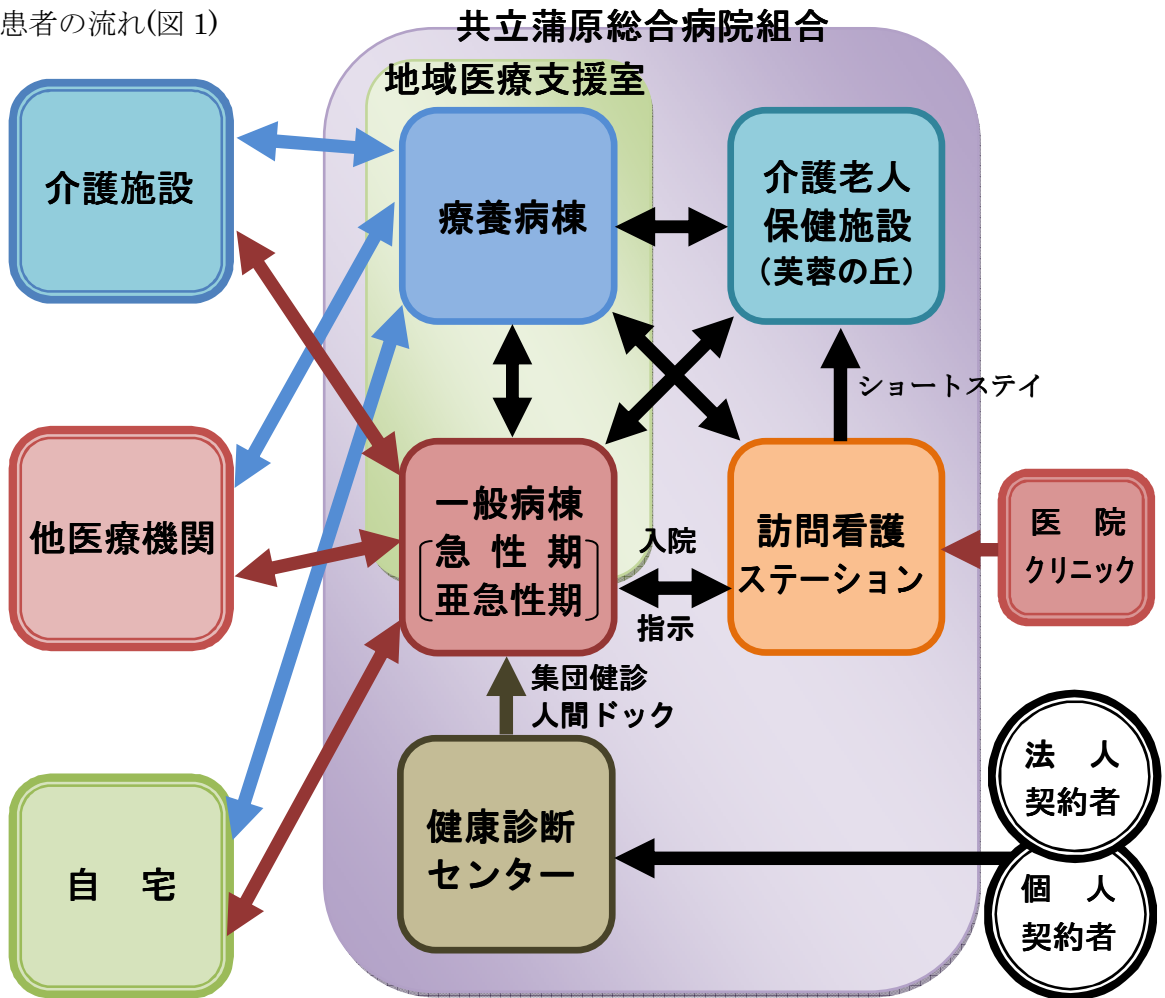
当院の患者の流れは、図1のようになります。また、療養病棟の受入状況は、下表のとおりです。受入状況を見ますと、他医療機関から77人、院内転棟58人が大半を占めています。

当院のようなケアミックスを実施している病院は少なく、また、地域の特性を考えると、ケアミックス病院の必要性は高いものと思われま

療養病棟の受入状況（平成22年10月～平成23年6月） 単位：人、（%）

転院元	受入患者数	地域別内訳		
		静岡市	富士市	富士宮市
他医療機関	77	33 (43)	24 (31)	20 (26)
介護施設	4	1 (25)	2 (50)	1 (25)
自宅	21	16 (76)	4 (19)	1 (5)
院内一般病棟からの転棟	58	33 (57)	20 (34)	5 (9)
合計	160	83 (52)	50 (31)	27 (17)

患者の流れ(図 1)



(2) 亜急性期の病床

第3章において述べたとおり、病床が持つ特有の機能や役割を活かした機能分
化がより一層進展していくことが予測されることから、亜急性期の病床の開設を
図っていきます。

亜急性期の病床は、急性期を脱した患者や在宅・介護施設等にあって症状の急
性増悪した患者の受け入れ先として大きな役割を担うものとなります。

亜急性期の病床は、リハビリテーションを要する患者が多いこと、また、入院
期間の上限が決められ、退院後は在宅復帰することが条件となることから、リハ
ビリテーションを行う理学療法士と在宅支援担当者を配置し、より強固なチーム
医療を実践していきます。

(3) 救急医療

当院における救急患者の対応は、1次救急から2次救急まで、可能な限り救急
患者を受け入れるため、365日24時間体制で実施しています。

平成22年度の救急患者数は、次頁のとおり全体で4,565人となっており、そ
のうち4,185人が時間外となっています。

住民アンケートの結果においても、当院の果たすべき役割として「救急医療の充実」を望む回答が最も高く、当院の救急医療への対応を維持し続けることは、この地域に対する責務と言えます。

今後は、救急看護認定看護師の資格取得者を増やし、より一層救急医療の充実を図っていきます。

平成 22 年度救急患者数《科別患者数》 (単位：人)

		時間内	時間外	小計
入院	内科	125	336	461
	小児科	0	0	0
	外科	21	145	166
	皮膚科	0	1	1
	泌尿器科	0	0	0
	整形外科	14	51	65
	産婦人科	0	0	0
	眼科	0	1	1
	耳鼻科	0	0	0
	脳神経外科	42	112	154
	神経内科	0	0	0
	呼吸器科	0	0	0
	計	202	646	848
	外来	内科	56	1,445
小児科		2	635	637
外科		7	464	471
皮膚科		1	149	150
泌尿器科		2	51	53
整形外科		40	362	402
産婦人科		1	1	2
眼科		0	19	19
耳鼻科		1	47	48
脳神経外科		68	311	379
神経内科		0	4	4
呼吸器科		0	51	51
計		178	3,539	3,717
合 計		380	4,185	4,565

平成 22 年度救急患者数《地域別》

(単位：人)

		時間内	時間外	小計
入院	富士市	78	296	374
	静岡市	98	305	403
	富士宮市	2	2	4
	その他	24	43	67
	計	202	646	848
外来	富士市	83	1,726	1,809
	静岡市	52	1,508	1,560
	富士宮市	2	9	11
	その他	41	296	337
	計	178	3,539	3,717
合 計		380	4,185	4,565

(4) 診療

当院の診療科のうち、地域における役割として特色のあるものは、次のとおりです。

①消化器内科

富士医療圏や隣接する清水区東部は、肝臓がんの多発地域として、特に富士川流域では男性の肝臓がんが多いとされています。このような地域に位置する当院では消化器内科の医師を中心に、この肝臓がんの原因のほとんどを占めるC型・B型ウイルス性肝炎に対する最も効果的なインターフェロン治療を積極的に実施し、県内でもその症例数はトップクラスとなっています。

このような活動は、地域の肝臓がん発症抑制に寄与し、県からは富士医療圏における地域肝疾患診療連携拠点病院の指定を受け、専門病院としての立場を担っています。今後もこのような地域に密着した診療を推進していきます。

②小児科

当院での小児科医療は、乳幼児から中学生までを主に診療しており、1つの特徴として時間外診療を行っています。これは、通常の診療時間帯には通園や通学、更には保護者の就労などの諸事情を考慮すると受診しにくいという状況に対応するためのものです。平成22年度の時間外受入患者数は、(2)の救急医療4,185人のうち635人となっています。

また、小児科対象年齢にとって、各種予防接種は必要なものであることから、三種混合やインフルエンザ等全てのワクチン接種を実施しています。

以上のような取り組みは、地域小児科医療に貢献しており、地域医療ニーズも高く、今後も積極的に取り組んでいきます。

③内視鏡センター

当院では内視鏡検査を充実させるため、平成19年に内視鏡検査室を1床増床して4床とし、更に、診察室を増設し内視鏡センターを新設しました。

同時に、より多くの受診者を受け入れるため、経鼻内視鏡機器も導入しました。現在では、健康診断センターの受診者をはじめ、外科及び内科の外来や入院患者にも検査を実施しています。平成22年度においては、下表のとおり外科、内科、健診、人間ドックにより6,647件の検査実績を上げています。

今後は、更に経鼻内視鏡の機器整備を図り、内視鏡検査を充実していきます。

平成22年度内視鏡検査実績

検査科	件数
外科	1,708
内科	1,044
健診	20
健診二次	441
人間ドック	3,216
人間ドック二次	213
その他	5
合計	6,647

(5) 健康診断センター

健康診断は、予防医学の観点から、また、医療費抑制策や住民の健康意識の高まりなどから、この重要性が再認識されています。

当院の健康診断センターでは、平成22年度の実績では次頁のとおり3万9,356人の集団健診及び7,095人の人間ドックを実施しました。受診対象者は、富士市、富士宮市全域と静岡市西部まで、更に、東方面は三島市（平成22年実績）にまで及んでおり、広範囲な住民の健康管理を支援するものとなっています。

今後も、PR活動などを含め、今まで以上に積極的な活動を展開していきます。

平成 22 年度健康診断実績

区 分		受診者数（人）	
		集団健診	人間ドック
富士市	市健診	4,625	545
	企業健診	17,303	2,655
静岡市	市健診	3,168	89
	企業健診	5,875	1,058
富士宮市	市健診	661	0
	企業健診	6,842	1,120
その他	市健診	0	0
	企業健診	882	1,628
合 計	市健診計	8,454	634
	企業健診計	30,902	6,461
	総 合 計	39,356	7,095

(6) 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションでは、平成 22 年度において、院内の診療科に係わる 42 人、他の医療機関に係わる 33 人の計 75 人の訪問看護を実施し、必要な利用者には 24 時間対応をしています。この内、訪問リハビリテーションは 29 人に実施しています。

体制は看護師 6 人と理学療法士 1 人で、1 日約 18 人を訪問し、この内、約 7 人に対しリハビリテーションを行っています。

しかしながら、訪問リハビリテーションにおいては、現体制では十分に需要に対応しきれない状況です。

訪問看護は、通院が困難な地域住民にとって診療を受ける貴重な手段であり、地域の特性及び当院の亜急性期の病床の導入を考慮すると、利用者は益々増加していくものと思われます。

今後は、リハビリテーションの体制を整え、訪問看護ステーションとしての充実強化を図っていきます。

2. 病床数

富士医療圏では、基準病床数において、療養病床数は不足している状況です。このことから、ケアミックス病院として位置付けた当院の病床数を、以下のとおりとします。

(1) 一般病床

「第 2 章 1. 入院患者数の推移」で記述したとおり、療養病棟の開設により、一般病床の利用率も上昇しました。これは、療養病棟に直接入院するケースもあ

りますが、本章1の(1)ケアミックス病院の表に示したとおり、約4割の患者が一旦、一般病棟に入院して状態を確認した後、療養病棟に転棟するという、まさにケアミックスが行われていることを示しています。

また、下表のとおり、病床利用率は順調に推移していますので、一般病床数は現在の143床を維持していきます。

なお、一般病床143床の内、本章1(2)で述べた亜急性期病床の導入については、当院の一般病床数から積算すると最大22床が認められますが、入院患者の状況を踏まえて適切な病床数を定め、早期に亜急性期病床の導入を図っていきます。

病床利用率（一般病床）

	H22										H23					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
患者数(人)	105.0	113.3	119.1	140.3	144.8	140.7	107.7	118.5	113.9	123.2	118.9	123.0	114.2	127.0	135.8	
病床利用率(%)	55.5	59.9	63.0	74.2	76.6	79.9	82.9	91.2	87.6	94.7	91.5	86.0	79.9	88.8	95.0	
稼働病床数	189						130				143					

(2) 療養病床

前述のとおり、富士医療圏における療養病床数は不足している状況にあり、ニーズはかなり高いと思われませんが、新たに亜急性期病床を導入することから、本計画期間にあつては療養病床数60床を維持していきます。

病床利用率（療養病床）

	H22										H23					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
患者数(人)	/	/	/	/	/	/	29.6	35.6	43.5	44.1	41.7	44.3	47.8	44.7	51.5	
病床利用率(%)	/	/	/	/	/	/	49.4	59.4	72.5	73.5	69.5	73.9	79.7	74.5	85.5	
稼働病床数	/						60									

(3) 全体の病床数の計画

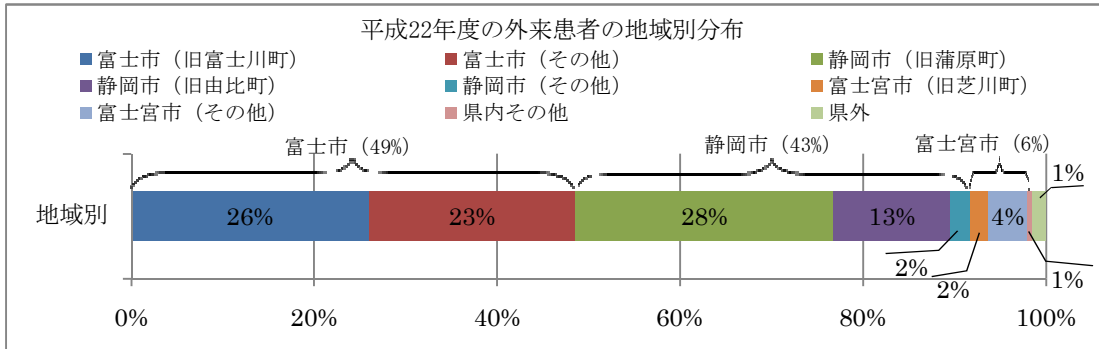
以上を踏まえて、病院全体の病床数を掲げます。

		H22		H23		H24	H25	H26	H27
		4月	10月	3月	10月	4月	4月	4月	4月
一般病床	急性期の病床	189	130	143	129	129	121	121	121
	亜急性期の病床				14	14	22	22	22
療養病床			60	60	60	60	60	60	60
病院全体		189	190	203	203	203	203	203	203

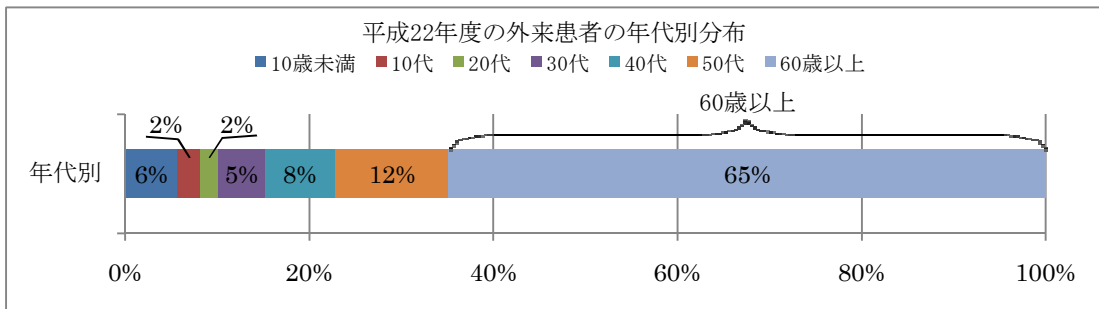
3. 外来

(1) 患者の傾向

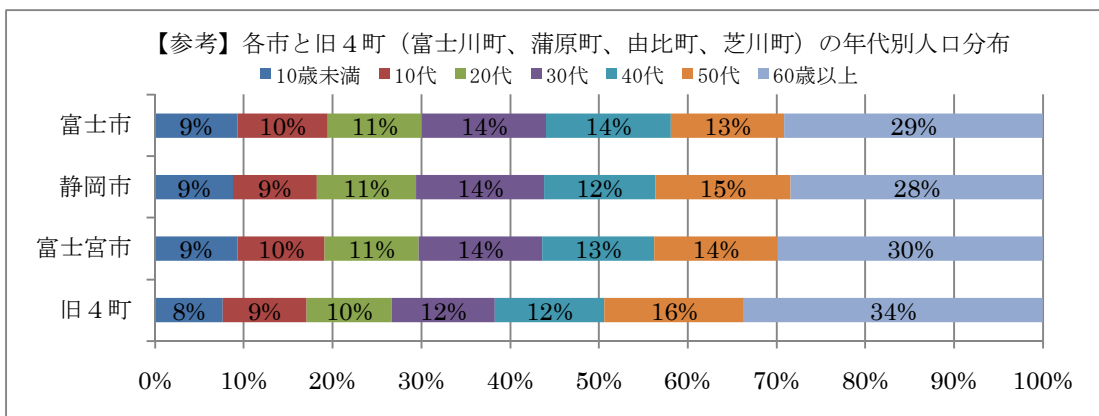
平成 22 年度の当院における外来患者の傾向として、地域別に見ると富士市が 49%、静岡市が 43%、富士宮市が 6%を占めており、その内訳を見ると、旧 4 町（富士川町、蒲原町、由比町、芝川町）が全外来患者の約 3 分の 2 である 69%と非常に高い割合です。



また、年代別に見ると 60 歳以上が 65%とかなり高い割合を占めています。



参考として、各構成市と旧 4 町の年齢別人口分布を比較すると、旧 4 町は各構成市より高齢化率が高くなっています。

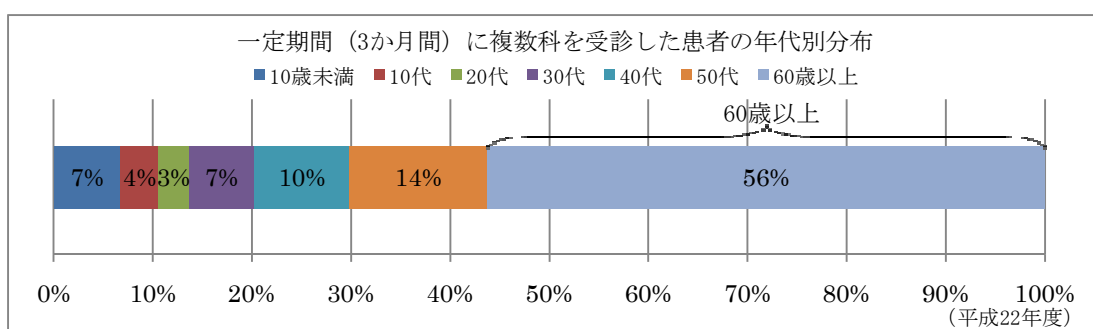
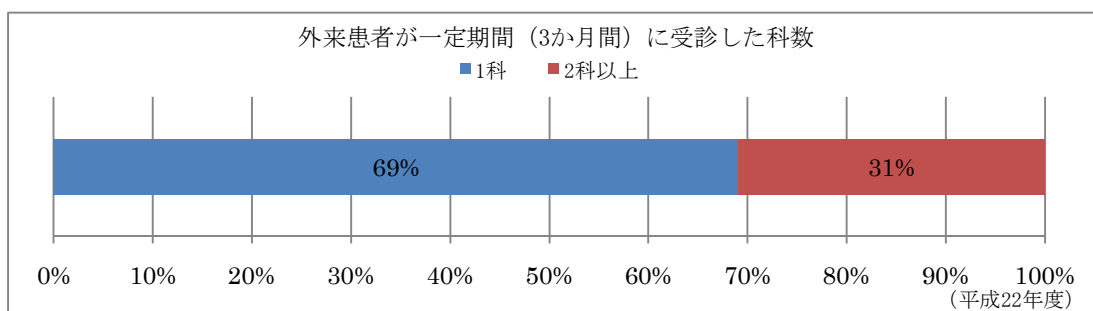


(2) 受診傾向

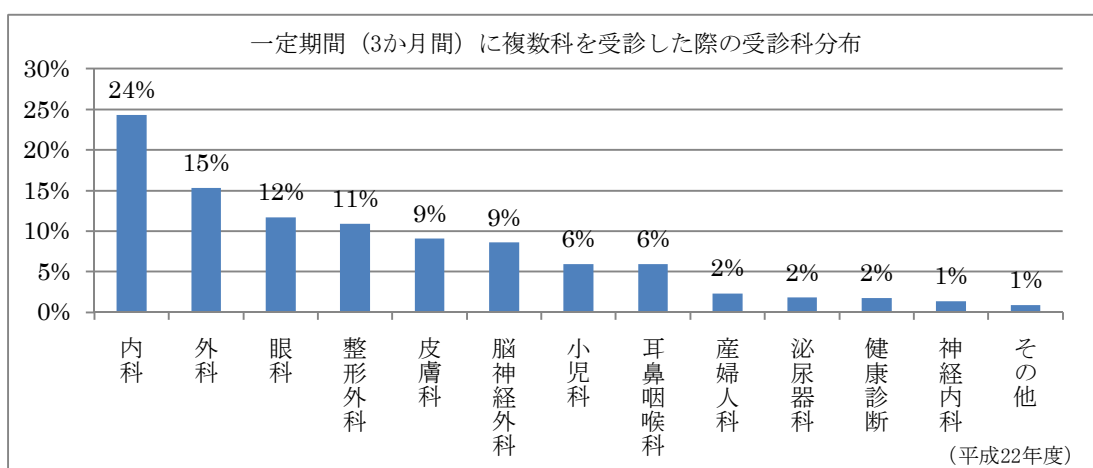
当院における外来の受診科としては、「第2章 2. 外来患者数の推移」に述べたとおり、内科の利用者数が最も多く、続いて整形外科、外科、脳神経外科となっています。

また、外来患者のうち3割が、一定期間（3か月間）において複数科を受診しており、1割は同日中に複数科を受診しています。

なお、年齢が上昇するに連れて、複数科を受診する割合が増えるといった傾向があり、特に60歳以上では、半数以上が複数科を受診しています。



一定期間において複数科を受診する場合、内科の利用が最も多く、続いて外科、眼科、整形外科、皮膚科、脳神経外科の順となっております。



(3) 近隣地域の外来診療科目

「(1)患者の傾向」で記述したとおり、当院における全外来患者のうち、旧4町地域からの患者の割合が、約3分の2といった非常に高い割合を占めています。

旧4町の地域における他の医療機関（診療所）の診療科目数を見ると、当院において外来患者数の多い外科、整形外科の数は少なく、内科、小児科を除く他の診療科についてもその数は決して多くはない状況です。

また、脳神経外科は当該地域では、当院のみとなっています。

旧4町の医療機関（診療所）の外来診療科目

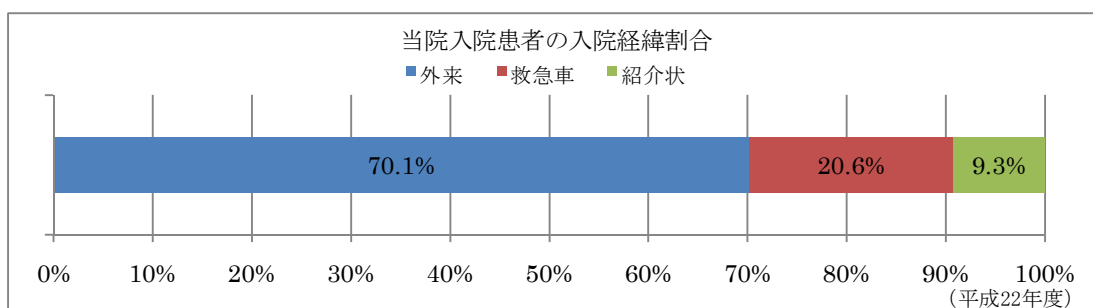
(平成22年4月現在、当院を除く)

地域 (旧4町)	開設種別	内科	小児科	外科	皮膚科	放射線	麻酔科	呼吸器内科	整形外科	泌尿器科	耳鼻咽喉科
富士川町	個人	○		○		○	○				
	個人	○		○							
	個人		○								
	個人	○									
小計		3	1	2	0	1	1	0	0	0	0
蒲原町	医療法人	○	○	○	○					○	
	医療法人	○	○								
	個人	○	○								
小計		3	3	1	1	0	0	0	0	1	0
由比町	医療法人	○		○	○				○		
	医療法人	○	○								○
小計		2	1	1	1	0	0	0	1	0	1
芝川町	個人	○						○			
	個人	○	○				○				
	個人	○	○			○					
小計		3	2	0	0	1	1	1	0	0	0
合計		11	7	4	2	2	2	1	1	1	1

(4) 当院外来受診後に入院する患者

入院経緯の一つとして、外来受診後に入院するケースがあります。

当院においては、全入院患者のうち70%以上が当該ケースとなっています。



(5) 外来の維持

「(1)患者の傾向」及び「(2)受診科の傾向」で記述したとおり、当院における外来診療科は、地域の高齢者にとって重要な役割を担っており、高齢者が比較的短期間で複数の科を受診する傾向が多く見られます。

また、「(3)近隣地域の外来診療科目」で記述したとおり、地域における他の医療機関の外来診療科の数は決して多くはない状況です。

このような状況において、多岐にわたる外来診療科を提供する中核病院としての当院の役割は非常に重要なものとなっております。

以上のことから、当院の外来については、地域の特性や地域のニーズの面からも、計画期間である5か年においては、現在の診療科を維持するとともに、複数科受診患者の多い眼科の開設を目指してまいります。

4. 人材の確保

今まで述べたような入院、外来などの医療機能を維持・強化していくためには、携わる人材の確保と適正な人員配置を行う必要があります。

(1) 医師

①経緯

平成16年4月に医師臨床研修医制度が施行され、研修医は都市部へ集中し、さらに大学病院が関連病院へ派遣した医師を引き上げ始め、地方の病院では深刻な医師不足に陥っています。

当院においても、平成16年に43人の常勤医師が在籍していましたが、平成17年に医局からの引き上げが始まり、平成23年4月現在では、医師数は19人に減少しました。

この間、医師の招聘は、各医科系大学教授や医局への要請、医師紹介業者の登録及び医師募集のホームページ掲載などの対応を図ってきました。

(平成 16 年から平成 23 年の医師採用実績)

大学医局より派遣 常勤医師 43 人
 紹介業者 常勤医師 6 人
 その他から紹介 常勤医師 11 人

②平成 23 年 4 月現在の配置状況 (人)

	常勤	非常勤		常勤	非常勤
	人数	常勤換算		人数	常勤換算
医師	19	5.91	小児科	1	0.08
内科	7	0.84	産婦人科	1	0.10
循環器科	1	0.20	皮膚科	1	
呼吸器科		0.05	整形外科	1	0.61
消化器科	2	0.13	泌尿器科		0.40
一般内科	4		脳神経外科	2	0.20
内視鏡検査		0.46	耳鼻咽喉科		0.60
神経内科		0.40	眼科(休診)		
外科	5	0.28	麻酔科	1	0.40
外科	5		放射線科		0.39
脈管外来		0.05	病理検査		0.20
リウマチ外来		0.10	健康診断センター		0.61
呼吸器科		0.05	透析センター		0.80
内視鏡検査		0.08			

③人員確保のための対策

今後の医師の招聘については、全国的に深刻化している医師不足の中、引き続き各医科大学教授や医局への要請、医師紹介会社への登録及び医師募集のホームページ掲載を実施するとともに、県の医師派遣制度等の活用や医師招聘を行う専門員の配置など、医師確保に努めていきます。

(2) 看護師

①経緯

慢性的な看護師不足の中で、診療報酬の改定により 7 対 1 看護基準が導入され、ますます看護師不足が深刻化しています。当院でも、毎年退職者数が採用者数を上回っている状況であり、看護師の確保のため、看護学校等の訪問、ハローワークへの登録及び各種ホームページへの掲載など、積極的な対応をしました。

看護師の就退職の状況 (人)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
就職		①11	7	14	9	14	17
退職	②26	30	18	16	19	20	
増減		③△15	△23	△4	△7	△5	△3

※③増減の計算：①当年度就職人数－②前年度退職人数

②平成23年4月現在の配置状況 (人)

病棟・部署	病床数	管理職等	看護師	合計
東3階病棟	60	1	29	30
本館4階病棟	46	1	25	26
新館3階病棟	37	1	21	22
療養病棟	60	1	15	16
手術室		1	8	9
診療外来・救急外来		1	31	32
透析センター		1	6	7
訪問看護ステーション			6	6
健康診断センター			9	9
地域医療支援室		2		2
看護部(管理職及び産休等)		4	8	12
合 計		13	158	171

③人員確保のための対策

(a) 奨学金制度の利用促進

新卒看護師確保のため、奨学金制度の利用促進を図ります。

金額 月額 30,000円(無利息)

返還免除 卒後13か月以内に看護師免許を取得し、貸与を受けた期間に相当する期間を引き続き当院で看護師の業務に従事したとき。

(b) 医師住宅の活用

現在、医師住宅には空室があることから、看護師への利用を検討します。

(c) 院内保育所の再開

平成16年度より休止となっている院内保育所の再開を検討します。

(d) 給与制度の検討

給与制度を近隣の自治体病院に近づけるよう検討します。

(3) 医療技術員

①平成 23 年 4 月現在の配置状況 (人)

職 種	管理職	職員
薬剤師	1	9
臨床検査技師	1	12
放射線技師	1	8
理学療法士	1	9
(訪問)理学療法士		1
作業療法士		3
言語聴覚士		2
視能訓練士		1
栄養士		4
臨床工学技士		3

②理学療法士

現在の人員体制では、ニーズに応えられていない状況であり、さらに亜急性期の病床導入により、リハビリテーションの必要性が増大することから、理学療法士を計画的に確保していきます。

平成 24 年度 2 人

平成 25 年度 1 人

③その他の医療技術員

必要に応じて採用していきます。

5. 医療機器等

老朽化した医療機器等については、計画的に更新していきます。

<主な医療機器更新計画>

平成 23 年度 CTシステム、X線テレビシステム

平成 24 年度 X線撮影装置

平成 25 年度 血管造影システム

平成 26 年度 健診車更新、X線テレビシステム

平成 27 年度 高圧蒸気滅菌装置

<平成 27 年度までに整備が必要な医療機器等>

電子カルテシステムの導入